

民報

あばしり

NO.1063

2016.4.3

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四四三・四四五八
F四三・四四五七



新年度予算案に反対!

日本共産党松浦敏司議員は3月22日の本会議で、一般会計と7特別会計及び敬老祝い金条例改正について反対しました。



松浦議員は、一般会計予算について過去の大型開発型公共事業の推進で財政が悪化し、その解消のために行政改革の名の下に市民への利用料・手数料の引き上げと職員削減や手当の削減、給与の削減など痛みの伴う改革で乗り切ってきた。その結果、債務は減少したが各財政指標は大きくは変わらず、過去につくった借金の返済が重くのしかかり厳しい状況が続いている。

平成27年度末の一般会計債務残高は353億円になり、長期の債務負担行為額は約30億円、それに取り崩し可能な基金24億円を差し引くと359億円となる。また、特別会計の網走港整備特別会計の赤字13億円、能取漁港整備特別会計5億5900万円、簡易水道事業会計5億4900万円を加えると合計407億となる。更に、下水道事業会計72億円、上水道企

業債55億7400万円を加えると535億円で、市民一人当たりの借金は143万円となり、昨年度とほとんど変わらない。

これまで、行政改革で人員削減と手当・給与の削減などが行われてきたが、これ以上の行政改革は職員の意欲低下につながるもので軽視できない。また、保育園の統廃合に合わせて民設・民営化は、児童福祉法という市の責任からも公立保育園を堅持すべきと批判しました。

評価する点として、継続している子どもインフルエンザ予防接種などのほか、子ども医療費の入院費中学生までの無料化、就学援助のPTA会費、生徒会費、クラブ活動費、住宅リフォーム融資制度などは評価する。

また、新年度予算では、子ども医療費の通院費を1割負担を原則に高校生までの子ども3人以上いる世帯に3人目から無料化する。住宅リフォーム助成制度の導入は高く評価する。

しかし、総体的には住民の経済的、社会的弱者、高齢者の暮らしを見据えたものとはならず、市民密着型の政治には届いていないとして反対しました。

松浦奮戦メモ

私は、11月から週に2回3回地域を訪問して「戦争法を廃止する署名」を集める活動をしています。3月に入ってから陽が長くなり寒さも和らいで、署名活動がやりやすくなりました。留守宅も多いのですが会えたところでは、みなさん快く署名に応じてくださいます。中には、署名用紙を何枚も預かって、ご近所や友人・知人から集めてくださる方もいます。自民党員や自民党支持者の方も「安倍政治は危険だ。戦争は絶対にしてはダメだ」と署名をしてくれまし、時には創価学会の方も「戦争には反対です」と協力してください。寒さは和らいでも安倍暴走政治への怒りは増すばかりです。3月29日に戦争法が施行されたので法律が動き出します。4月25日までに党として3000筆の目標です。もう少しのところまでできていますので頑張ります。署名にご協力をお願いします。

街・スポットライト

利用しやすい「コミュニティバス」にしたい!

3月27日(土) 鉄南・錦町地域を走行している「コミュニティバス」を利用しやすいようにしたい」と地域懇談会が開かれました。

「地域住民懇談会」では①厚生病院の朝の受付時間間に合うように時刻の変更をしてほしい②厚生病院の午後の受付が利用しやすいように、6便の到着時刻を変更してほ

しい③病院へ行くルートが作れないか考えてほしい④安全のためにも乗車券をとらずに済むように、同一運賃にしてはどうか⑤安心して利用できるように、一目でわかるように工夫してほしい等どれも切実です。



町内会では今回の要望を市に上げ網走バスと検討してもらえると期待しています。今回あげられた要望ばかりでなく、「懇談会」に参加できない住民の方の意見をどう拾い集めるのか、そこに利用者を増やし持続可能な「コミュニティバス」にしていけるのかカギがあるのではないのでしょうか。

流水

雪に閉ざされた季節からやがて草木が芽吹く4月。希望と不安に満ちた季節です。▼末っ子の孫が高校へ進学。受験までが高校へ進学。受験までの猛勉強と希望校選びで悩んだようですが合格して今はホッとしていることでしょう。この末っ子が誕生した時の一家は祖父母、娘夫婦、孫4人、合計8人の大家族でした。子育てをしながら農業に精を出す娘夫婦、やがて月日は流れ長女の孫が大学へ続いて2女3女も大学へそして末っ子の4女が高校へと思いきいの夢に向かつて歩きはじめました。▼娘夫婦は常々「国立の学校でないと行かせられないよ」と言っていたから孫たちは肝に銘じて入学金や学費の安い学校を選んだようです。孫たちが飛び立った後の家は大人3人となり静かになりました。▼3月18日、日本共産党は「学費、奨学金の抜本改革、最低賃金の抜本引き上げ」と3つの提案をしました。この提案はすぐに実現してほしい。孫たちも奨学金を受け、安い時給のバイトをしながら学生生活を送っています。それが生活費が足りなくて親の援助を必要としています。家は軽くなったが子どもが1人立ちできるまでは責任があると親としての覚悟は重くのしかかり一生懸命働いています。娘は時々「学費のために働いているのかなあ」とつぶやきながら夫の細かい足のすねを「これ以上かじらないように」と撫でています。(U) 3つの提案は3/18日の日刊紙に詳しく出ています。